

長崎いのちの電話だより



51号

社会福祉法人 長崎いのちの電話

2018(平成30)年

6月10日

〈相談電話〉 **095-842-4343** 年中無休
 (第1・第3土曜日は9:00～翌9:00) 9:00～22:00
 全国一斉フリーダイヤル(毎月10日 8時～翌8時) 0120-783-556
 自殺予防 いのちの電話

(発行人)中根 允文 (編集)広報委員会
 〒852-8799 日本郵便長崎北支店 私書箱45号
 (事務局)電話 095-843-4410
 F A X 095-844-3600
 ホームページ
<http://ngsk4343.sakura.ne.jp>

『ネットゲーム依存』は病気…… WHO:「行動嗜癖による障害」と規定の方向



長崎いのちの電話
 理事長 中根 允文
 (長崎大学名誉教授)

平成30(2018)年1月4日の朝日新聞の一面トップに「ゲーム依存は病気」という記事が掲載され、更に3月30日の週刊朝日に『「スマホ認知症」が高齢者を襲う』の記事が出てくるに及んでは、インターネットやスマホへの極度の不安感あるいは悪印象が世間的に記憶されたのではないのでしょうか。これらの題字を見て、なんで今更と思う人がいるかも知れないし、一方では精神科関連の病気だなどとは余りに大仰に騒ぎ立ててと思う人がいたかも知れません。もちろん、精神科の病気の範疇など、関心がないという人もいるかも知れません。ともあれ、社会的に極めてポピュラーになっているスマホなどの機器が何か大きな話題を生み出しつつあることには間違いないようです。それにも拘わらず、一方ではこうした傾向を更に助長するような風潮のあることも否定できません。極めて身近なところではパチンコや競輪・競馬などのギャンブル隆盛をあり、更には、地方自治体の申請に基づきカジノの併設を認める区域を指定して設置する統合型リゾート施設(Integrated Resort, IR)実施法案(カジノ法案)の動きなども起こってきています。インターネット・ゲームや各種のギャンブルに係る依存が、ようやく日本でも注目されてきていることは確かです。大人であれ青少年であれ、あるいは高齢者であっても、今後は本格的に知っておくべきテーマとなりそうです。ことにインターネットなどで調べていくと、今後、日本国内でカジノ候補地として6カ所があげられる中、有力なのは東京と大阪、そして長崎県だとされていますから、無視できない話題のように考えます。

精神科疾患の診療に関わっている精神科医達の組織の一つである米国精神医学会が、2013年に公表した「DSM-5、精神疾患の診断・統計マニュアル第5版」において「インターネットゲーム障害」を「今後の研究が要請される病的状態」として取り上げたことを切っ掛けに、世界保健機関(WHO)も、本年秋までに公表す

る新しい疾患分類(国際疾病分類-第11改訂版)では明確に一つの疾患群「行動嗜癖(behavioral addiction)による障害」として精神疾患群の中で確立される方向にあると聴きます。

古くから、日本でも賭け事の好きな人たちの一群のあることは知られていましたが、それは所謂「病的賭博」みたいにごく一部の人たちに係る話題であって、国を挙げて懸念するほどのことは無いと見なされていました。しかし、今や成人だけでなく青少年あるいは学童生徒に至るまでインターネットやスマホに熱中して、日常的に関わるべき作業をおろそかにしてしまうことになるのではとか、余りに過激にとらわれて行けば認知症の高率発生へと繋がるのではないかと懸念されるまでに至っているのです。

また、「嗜癖」というとき、これまでは様々な物質への耽溺、たとえばアルコールや薬物・薬剤などといった物質に基づく「物質使用障害」(Substance use disorder)がメインでしたが、今後は更に同じ範疇の障害が広がっていくと見なすべきみたいになりつつあると言えそうです。

いのちの電話に相談してくる人たちに精神的問題を抱えている方が断然多いことは周知のことであり、中には自殺企図の頻度が高いことも知られています。新たにいのちの電話に相談してくる方の懸念の根源に、いわゆる「物質使用障害」に加えて「行動嗜癖」に苦悩する方がおられることも知っておくべきなのでしょう。

そこで、こうした動きに注目して「インターネット依存度テスト」や「インターネット依存自己評価スケール」などの日本語版開発とともに多数事例の現実的診療に努力しながら、幅広いアプローチを試みてこられたのが、今秋に予定している当センター開局24周年記念講演会「ネット依存の現状と課題～深刻化する若者への影響と急がれる社会的取り組み～」の講師である独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センターの樋口進先生その人です。当日の長崎講演会では、表記のように、ネット依存を中心に、先生ご自身のこれまでの作業を通して確立してこられた知見を広く紹介していただけるものと期待しています。

樋口先生の最新刊:「スマホゲーム依存症」(内外出版社 1200円)も現状と課題を理解するのに大いに参考になるのではないのでしょうか。

《公開講演会のご案内は次ページにあります》

26期電話相談ボランティア 養成講座始まる

長崎いのちの電話は来年11月5日に開局25周年を迎えます。9130日余休むことなく相談電話を受け続けることとなります。この活動が1万日、1万5千日と続くよう今年も電話相談ボランティアの養成講座が始まりました。なお、養成講座の内、前期講座は公開講座を兼ねています。日程等の詳細は4面下に掲載しました。多数の聴講をお待ちします。

※運営ボランティアも募集中です※

『電話相談活動は時間的にも難しい。でも何らかの運営の手伝いは出来るかも。そんなボランティアは募集しないの?』との問い合わせをいただくことがあります。是非お手伝い下さい。応募詳細については事務局までお問い合わせください。お待ちしております!!

継続研修(スーパービジョン) 担当講師のご紹介

相談員として認定されるまでには、前期講座(座学)から始まり電話実習も含め1年半近い養成講座・研修をクリアしなければなりません。

そして、相談員となってからも継続的な研修を受け続けます。特に『スーパービジョン』は毎年8カ月に亘る全員の月1回の必須研修です。以下、今年度のスーパービジョンを担当して下さる講師(スーパーバイザーと言います)をご紹介します。(50音順 敬称略)

有永 裕之 長崎市福祉事務所 ケースワーカー	内野 成美 長崎大学准教授 臨床心理士	江藤小夜子 教育カウンセラー
川浪由喜子 長崎純心大学学生相談室 臨床心理士	古賀 義 前長崎国際大学教授 臨床心理士	澤 宣夫 長崎純心大学教授 社会福祉士
長野真基子 スクールカウンセラー 臨床心理士	福田 順子 スクールカウンセラー	松永 文保 みどりの園病院 精神科医

2017(平成29)年度一般会計収入・支出決算書

当法人の昨年度「収入・支出決算書」を報告します。長崎法人会様・長崎共同募金会様を始め多くの個人・団体のご寄付・賛助会費などで私共の活動は支えられております。誠にありがとうございました。

収入の部	項目	予算額	決算額
	1 講習会費	795,000	554,500
	2 補助金	1,970,000	1,930,000
	3 賛助会費	1,400,000	1,264,000
	4 寄付金	3,640,000	3,416,138
	5 受取利息	7,000	3,984
	6 雑収入	38,000	1,057,377
	小計	7,850,000	8,225,999
	7 前期繰越金	252,571	252,571
	合計	8,102,571	8,478,570

支出の部	項目	予算額	決算額
	1 人件費支出	2,280,000	2,484,310
	1) 非常勤職員給与	2,000,000	2,194,450
	2) 職員交通費	280,000	289,860
	2 事業費	3,073,000	2,926,694
	1) 電話相談運営費	130,000	103,118
	2) 養成研修費	1,040,000	994,980
	3) 継続研修費	543,000	456,210
	4) 広報費	1,310,000	1,372,386
	5) 研修会参加費	40,000	0
	6) 運営諸費	10,000	0
	3 事務管理費	2,319,000	2,238,765
	1) 旅費交通費	32,000	61,240
	2) 事務消耗品費	60,000	41,925
	3) 印刷製本費	228,000	188,665
	4) 修繕費	10,000	0
	5) 通信運搬費	303,000	272,878
	6) 会議費	30,000	15,767
	7) 委託費	130,000	129,600
	8) 諸手数料	43,000	54,186
	9) 保険料	52,000	48,497
	10) 土地建物賃借料	1,231,000	1,245,097
	11) 渉外費	20,000	14,676
	12) 分担金	170,000	165,000
	13) 雑費	10,000	1,234
	小計	7,672,000	7,649,769
	5 予備費	430,571	0
	6 次期繰越金		828,801
	合計	8,102,571	8,478,570

開局24周年記念公開講演会

11月3日(土)に開催

長崎いのちの電話では、1994(平成6)年11月5日の開局の日を記念し、毎年11月に公開講演会を開催しています。

今年の予定は右記の通りです。多数のご参加をお待ちいたします。(聴講料：無料)

本紙1面の中根理事長の寄稿にもあるとおり、『ネットゲーム依存』は、若年層を中心に大きな社会問題になりつつあります。新聞紙面にも『ネット依存症疑い 中高生52万人』『15歳不登校 ゲーム一日6時間』というような見出しが躍っています。しかし、多くの方(保護者も本人も！そして教育関係者すら!!)には『他人事』としか映っていないのではないのでしょうか。ネット依存治療の最前線におられる樋口先生をお迎えし、『我が事』とさせていただくための講演会を企画しました。

日時：11月3日(土) 13:00～15:00

会場：長崎市トセピアホール(長崎市千歳町5-1)

講師：久里浜医療センター院長 樋口進先生

演題：ネット依存の現状と課題
～深刻化する若者への影響と急がれる社会的取り組み～



樋口進 先生

長崎いのちの電話・春の公開講演会は、去る5月12日に内村公義先生(NPO法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジ理事長・まちなか相談室「風の舎」代表)を講師にお迎えし開催されました。以下は、講演会での聴講が叶わなかった読者の皆様へ内村先生からの特別寄稿です。(編集部)



いのちに寄り添う くちごもる だれかのとなりで

内村 公義 先生

NPO 法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジ理事長
まちなか相談室「風の舎」代表

はじめに「いのちに寄り添う」と言う難しいテーマを与えられて思い浮かんだのは谷川俊太郎の詩の一節であった。

みみをすます／くちごもる／となりのひとに

1 「いのちを大切に」という常套句がある。事ある毎に耳にするがあまり心に響かない。それで「自分を大切に」と言い換えるが、次のように考える人からは、これにもブーイングが聞こえてきそうである。

「おれの人生は失敗で、なんの意味もない、おれはなん千万もの人間のなかのケチなひとりで、死んだところでこわれたつぼとおんなじだ、別のつぼがすぐにおれの場所をふさぐだけさ、生きていようと死んでしまおうと、どうってちがいはありゃしない」(ミヒャエル・エンデ『モモ』大島かおり訳)

しかし、この絶望的なセリフには疼きにも似た「いのち」への渴望が感じられる。渴望されているのは、生きることの意味、自分自身の存在の価値としての「いのち」である。それが消滅することによって生じる痛みは「スピリチュアルペイン」と呼ばれるが、「いのちの痛み」とも言えよう。

2 ここで、「いのち」という言葉の概念規定をしておきたい。英語のlifeは、日本語では文脈によって「生命」、「生活」、「人生」と訳し分けられる。これは「いのち」ないし「生」の三つの次元を示している。「いのちを大切に」という場合には「生命」に重点が置かれ、「自分を大切に」という場合には、自分＝人生という意味合いが強い。この三つの次元は深く関連し合っており、私たちは、その関連の全体として「いのち」「生」を生きている。

この「いのち」、「生」の表現を二つ例示する。

年たけてまた超ゆべしと思ひきや

いのちなりけり小夜の中山〔西行〕

死の側より照明せばことにかがやきて

ひたくれなみの生ならずやも〔齋藤史〕

どちらの歌にも「いのち」が躍動している。敢えて言えば、「私はこのように生きた」という「人生の物語としてのいのち」が息づいている。

3 エリザベス・キューブラーロスが死の床にある人々から「死の宣告を受けた時に人生が終わるのではなく、そこから人生が真に始まる」ことを学んだ。彼女が寄り添っているのは躍動する「いのち」である。これに対して「いのちの電話」で経験する「いのち」の様態は枯渇に近い。しかし、だからこそ「いのちへの渴望」が湧き出してくる。

大学教員であった時の経験だが、講義中に「助けて!」と教壇に駆け寄ってきた学生がいた。「どうしても自分を愛することができない」というのが彼女の訴えであった。自分自身を肯定することができず、何度も自死を試みたが、その都度、助けを求めてきた。自死の試み自体が「生きたい」という訴えであった。我々が「いのち」に触れるのは、このような逆説的な「いのちへの渴望」ないし「いのちの痛み」においてであることが多い。

4 しかし、この「いのちの痛み」が「助けて!」とストレートに表出されることは多くない。この叫びは声にならず、なったとしても、くちごもって、言葉にならない。

私たちのNPOは、諫早で「風の舎」という、様々な生き辛さを抱える人々の「居場所」を開いている。昨年度は、延3,000人近くが利用または活動に参加し、570件を超える相談があった。しかし、その人たちが「風の舎」に来られるまでには遠い道のりがあった。ひとり悩む長い月日があってようやく、という人も多い。迷い迷った挙句に、ためらいながら家を出て、なんとか「風の舎」まで来たが、緊張のあまり中に入れないという人もある。そんな人が「今日はどんな相談ですか」、「どんなことでお悩みですか」と尋ねられても、言葉が出ないのは当然である。

5 ここが安心できる場所だと分かって、何を言っても、自分の不利にならず、勝手に解釈されることなく、そのまま受け止めてもらえると納得できて初めて、ぼつりぼつりと言葉が洩れ始める。聴く側から言えば、自分の知識や経験で相手の言葉を解釈するのではなく、「無知の姿勢」で臨むことが大切である。しかし、どんなに安心できても、言葉で気持ちを表すことができない場合もある。話せば話すほど、言葉と気持ちが乖離するという人もいる。自分は全く空っぽで、それについて悩むこともなく、こんなものだとあきらめているので、話すことは何もない、と言う人もいる。雑談が苦手で、気楽に世間話ができず、話すとするれば自分の内面や生き辛さになるが、そんなことはおいそれと口にされず、黙ったままの人もいる。逆に、恨みつらみや自責の念を繰返し延々と話し続ける人もいる。

6 このように、「まちなか相談室」というが、いわゆる「相談」ではない。「カウンセリング」でもない。だから、「とりとめのない話を聴いて、聴くだけで何になるのか、実効性が全くないのではないかととまどうことも多い。こんな「ためらい」と「とまどい」のはざま、どんなふうにもみすましているかと言えば、基本姿勢は三つである。(1)沈黙を聴く。不登校経験のある学生の言葉：「本人がそれを望まなくても、ずっと聴き続けてほしい」。つまり、相手が何も言わなくても、耳を澄まして、どんな言葉が洩れてくるのかと興味津々、じっと待つ。(2)答えはその人自身の中にある。ある利用者の言葉：「風の舎」は指針が自分の中にあることに気づかせてくれる場所。何をどう言えばよいのか全く整理されないうち、あれこれと話しているうちに、混沌の中から問題点やそれへの対処法が次第に明らかになってくる。(3)基本的に助言もアドバイスもしないが、少しずつ見えてきた対処法を一步一步具体的に実行するにはどうすればいいかを一緒に考える。

7 「風の舎」を訪れる人々の中でいちばん多いのは精神障がいを抱える人である。彼／彼女らが抱えている苦勞には三つの層がある。幻覚、妄想のような症状、生活上の困難、そしていかに生きるかという人生の根本問題。この三つの層が複雑に絡み合うが、根底にあるのは、自分が自分として他者と共にどう生きるかという問いである。これを性急に解決しようとして挫折し、症状が悪化することもある。それを一時、棚上げすることも必要であるが、やはり、そこへ戻って行く。そんな時に話し出されるのは「自分史」である。もちろん、まとまった話ではない。人生を積み重ねる地層にたとえば、過去のエピソードが、いろいろな地層からの湧水のように思い出されて、それをつぎつぎと話す。これを繰り返すと自分の歴史という地層が掘り起され、その地層を通して過去を生き直すことになる。そして、消したかった過去が全て、「自分が生きてきた証」として受け止め直される。

そこから、「私はこのように生きてきたのだ」「これが私だ」「これ以外に私はない」「私は私として生きる」という境地が開けてくる。その境地を示すのが次の詩である。作者は統合失調症の病歴があるメンバー。

僕は病気になってよかった。
 なぜならもし病気になっていなかったら、
 一生のうちで、こんな天と地が入れ変わるほどの
 すさまじい体験ができただろうか。
 そして、これほど自分と向き合うことができただろうか。
 体の傷、心の傷、多くの後悔、悲しみ、
 新たな出会い、感謝、喜び、
 明日への希望、そんなワクワク感に満たされて
 生きていることが、いかに幸せであるかということ。
 不思議なことなど何一つない。
 流れる時間をいい替えるならばそれは「キセキ」
 世界はキセキで満ち溢れている。

8 新約聖書にイエスが語った「からし種」のたとえがある。「それは蒔かれた時にはどんな種よりも小さいが成長するとどんな野菜よりも大きくなり、鳥が巣をつくるほどの大きな枝を張る」。これは「神の国」のたとえであるが、「いのち」のたとえと言ってもよい。

ためらいがちに、助けを求めてドアを叩く。じっと耳を澄ますと、長い沈黙を経て、くちごもりながら、辛く、苦しい胸中を明かし始める。そのささやかな勇氣に、私は小さい胚珠のような「いのち」を感じる。からし種一粒の「いのち」である。漏れてくる言葉は時には反社会的であり、時には理解不能である。戸惑いつつも耳を傾け続けると、共感不能と思われる言葉から「いのち」の疼きが伝わってくる。やがて、それは「いのち」の胎動に変わり、長い歳月を経てついには躍動に至る。

そんな経験の中で、私は、「くちごもるとなりのひとにみみをすます」ことが「いのちに寄り添う」ことなのではないかと、自分に言い聞かせている。

2018年長崎いのちの電話 公開講座のお知らせ

26期電話相談ボランティアの養成講座が始まりました。前期講座は公開講座を兼ねています。希望する講座を自由に受講することができますので、どうぞ参加ください(事前申し込み不要です。)

会場：長崎県総合福祉センター
 (長崎市茂里町3-24)
 受講料：1講座 一般1,000円 学生500円
 (当日、受付でお納めください)

日程	講座内容(テーマ)・講師
6月16日(土) 14:00～16:00	カウンセリングとは 活水女子大学/長尾 博 先生
6月30日(土) 14:00～16:00	死ぬこと・生きること 長崎ウエスレヤン大学/内村 公義 先生
7月14日(土) 14:00～16:00	発達障害とパーソナリティ障害について 長崎大学/今村 明 先生
7月28日(土) 14:00～16:00	家族の問題について(虐待・ひきこもりなど) 道ノ尾病院、前長崎国際大学/古賀 義 先生
8月 4日(土) 14:00～16:00	依存症の理解と対応(アルコール・ギャンブル・インターネットなど) 原口カウンセリングルーム、前福岡女学院大学/原口 芳博 先生
8月18日(土) 14:00～16:00	精神病性障害について(統合失調症など) 長崎いのちの電話理事長/中根 允文
8月25日(土) 14:00～16:00	生活の中での法律について(借金・離婚・相続など) なかむら総合法律事務所/中村 尚志 先生
9月 1日(土) 14:00～16:00	これからの高齢社会と福祉・介護 長崎純心大学/澤 宣夫 先生
9月22日(土) 14:00～16:00	うつ病と双極性障害について 長崎大学/中根 秀之

ご寄付・ご支援ありがとうございます

いのちの電話の運営は、皆様からの浄財によって賄われております。2016 年度下半期 (2016.10/1 ~ 2017.3/31)

に賛助会費や寄付金等を頂戴した皆様のお名前 (敬称略) を記し、感謝の意を表します。又、お名前は省略しますが物品寄付も沢山頂戴しました。ありがとうございました。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

賛助会費

(443,000円)

<個人>	相川 勝代	新井 弘子	荒川 明継	泉 博正	井石 哲哉	井石八千代	井手 保則
伊藤 昭子	稲澤 陽三	井之上早苗	今村由紀夫	大川理恵子	尾上 重道	片岡寿美子	兼松 隆之
木下 洋子	木村 令子	草場 里見	楠本 誠人	倉橋 康夫	近藤 松美	末吉 征志	鈴木キヨミ
瀬頭 敬子	築城 巖	築城 峯子	中富 昌夫	中山 士朗	中山 治子	波多野 徹	馬場 昭代
林田 清	原口 俊哲	藤野 了	藤本小枝子	堀田 征子	本田 圭助	本田 隆一	牧 多津江
牧 千尋	牧 俊夫	松尾みち子	松永 文保	松山 要	馬渡 圭一	三根真理子	宮本 孝治
本川 正和	森田 節子	山田 和子	山本 妙子	湯口 隆司	吉田 省三		

<法人・団体> * 医療法人 川原内科クリニック * 佐世保フロンティア法律事務所 * ダイエー工業株式会社
* 大光寺 * 学校法人純心女子学園 長崎純心大学 * 長崎電建工業株式会社 * 株式会社 吉本ハイテック

寄付金

(1,750,538円)

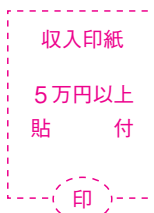
<個人>	青田 玲子	麻生 忠史	粟屋 曠	石丸 栄子	石丸 光子	入山 和明	後田 直美
内野 裕子	上滝佐和子	江良 修	奥野 素子	押瀨 礼子	川越 孝洋	川崎 義昭	木村 和子
清原 龍夫	串山 益子	小泉 朋子	古賀 義	小杉 修代	澤 宣夫	下山 時生	菅野 房子
砂川 久子	瀬口 卓也	早田真理子	平 稔	高村 淑子	谷口フミ子	玉井 慎美	田村 繁幸
築城 巖	築城 峯子	長岡 興樹	中根 允文	中牟田晶子	中山 士朗	成清 正	鳴海 幸代
西 隆義	西 宣子	野島 一彦	野田 桂子	野田 茂	馬場 昭代	平川 厚子	深堀千恵子
福島 建一	藤村栄三郎	藤本小枝子	古川サキ子	前田久仁子	松林 征子	松元 定次	三原 茂
三矢 泰彦	山田 美保	山本 妙子	匿名 1 名				

<法人・団体> * 東 公認会計士事務所 * 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 長崎中央理事会
* 聖ヴィンセンシオ 西町協議会 * 有限会社 オーケー薬局 (協賛金) * 光源寺 * 佐世保東ロータリークラブ
* 医療法人清潮会 三和中央病院 * 園田司法書士事務所 * 鎮西学院高等学校・幼稚園
* 長崎キリスト教協議会 * 長崎バプテスト教会 * 公益社団法人 長崎法人会 * 日本基督教団 長崎教会
* 日本基督教団 長崎平和記念教会 (クリスマス献金) * 社会福祉法人 一粒の麦の会 * 仁美税理士事務所
* 菩提寺 * 恵の丘長崎原爆ホーム

※ シン目で切り取ってご利用ください。
※ 払込手数料のご負担は不要です。

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、口座記号番号及び金額を記入する際は、枠内にはっきりとご記入ください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行または郵便局の払込機能付 ATM でもご利用いただけます。
- ・この払込書をゆうちょ銀行または郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証等を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。



この場所には、何も記載しないでください。

歳末募金

(476,000円)

<個人>	荒川 明継	荒木 迪子	井口 元孝	石丸 忠彦	伊藤美智子	上滝佐和子	大石 政江
大川理恵子	大富 英生	岡 六四	尾崎 節子	小田 孝	小野 靖彦	小原 玲子	鍵原 行雄
鍵原 恵子	片岡寿美子	片岡マサ子	加藤 保子	木下 洋子	木村 令子	久保田潤子	黒木喜美枝
後藤美佐子	澤田 修	鹿谷 隆朗	下山 高生	下山 時生	白壁 勝哉	進藤 義則	陣内恵美子
平 稔	高島 恭子	瀧 紀雄	田中 直孝	田中 正博	津山千寿子	朝長 佳子	鳥巢 維文
中上 末明	中澤 和嘉	中富 征代	中村 尚達	中村 政子	野口 純江	野崎 昌子	原田美佐子
平井 浩子	平坂 治子	藤澤久美子	藤野 了	藤村栄三郎	古川サキ子	本田 圭助	本多 文子
牧 多津江	牧 千尋	宮崎 和子	宮田 雄吾	宮本 孝治	牟田 義人	森 光徳	山口ハツ子
吉田 晴久	渡邊 才人	匿名1名					

- <法人・団体> * 石田エンジニアリング株式会社 * 援助マリア修道会 * 大坪整形外科
 * 有限会社 オーケー薬局 * 大村さくら法律事務所 * 健裕薬局 * じゅうばし内科医院 * 昭徳寺
 * 社会医療法人 春回会 * 株式会社 信和 * 医療法人 たかすぎ内科クリニック
 * 日本キリスト教団 長崎銀屋町教会 * 株式会社 中島工業 * 波多野アンドパートナーズ会計事務所
 * はざま神経内科・内科医院 * 医療法人はやし会 林内科医院 * 有限会社 パルハウス
 * 仁美税理士事務所 * 平井産婦人科 * 平坂製菓株式会社 * 医療法人 増田整形外科
 * 丸菱テクノ株式会社 * みちクリニック * 明練寺 * 司法書士法人 吉田合同事務所

資金援助ボランティアとして活動を支えて下さい

「長崎いのちの電話」は、相談員をはじめ全てボランティアで運営されており、その活動は寄付金・賛助会費・助成金で賄われています。あなたも“資金援助ボランティア”として「長崎いのちの電話」を支えてくださいませんか。ご協力をよろしくお願いいたします。

税制上の優遇措置があります

個人の場合：所得控除・個人県民税控除が受けられます。
 法人・団体の場合：損金算入が受けられます。

毎年一定の資金援助して下さる方は、賛助会員となります

- ★賛助会費 個人会費：1万円・5千円・2千円
 法人会費：5万円・3万円・2万円・1万円
- ★寄付金 金額は随意です。随時お受けいたします。

ご送金先 郵便振替 01870-3-40716
 加入者名「社会福祉法人長崎いのちの電話」
 ※下部の払込取扱票を切り取ってご利用いただくと便利です。
 ●「銀行振込み」をご希望の方は、事務局までご連絡ください。
 事務局 TEL 095-843-4410

払込取扱票

口座記号・番号はお間違えのないよう記入してください。

通常払込料金 加入者負担

02	口座記号	口座番号(右詰で記入)	金額	千	百	十	万	千	百	十	円
	01870	3	40716								
加入者名	* (社福) 長崎いのちの電話										
通信欄	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> に✓を入れ、賛助会費または寄付、金額をご指定ください。 <input type="checkbox"/> 賛助会費 個人会費 <input type="checkbox"/> 10,000円 <input type="checkbox"/> 5,000円 <input type="checkbox"/> 2,000円 法人・団体会費 <input type="checkbox"/> 50,000円 <input type="checkbox"/> 30,000円 <input type="checkbox"/> 20,000円 <input type="checkbox"/> 10,000円 <input type="checkbox"/> 寄付 (金額は随意です)										
依頼人	〒 - - お名前 (ご連絡先電話番号 - -)										
日	附 印										

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	01870	3	通常払込料金 加入者負担
	40716		
加入者名	* (社福) 長崎いのちの電話		
金額	千 百 十 万 千 百 十 円		
ご依頼人	おなまえ		
料金	日 附 印		
備考	円		

※シシ目で切り取ってご利用ください。
 ※皆様のご支援をお待ち申し上げます。

この受領証は、大切に保管してください。

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)
 これより下部には何も記入しないでください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
 切り取らないで出してください。